

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0470700204
法人名	社会福祉法人 宮城福祉会
事業所名	社会福祉法人 宮城福祉会 名取市グループホーム こもれびの家
所在地 (電話番号)	宮城県名取市手倉田字山212 (電 話) 022-384-4580
評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 11月 19・20日

【情報提供票より】(平成 20 年 10 月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 8年 8月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25人	常勤 20人, 非常勤 2人, 常勤換算	21.5人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造 造り	
	1・2 階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,500~ 27,600円	その他の経費(月額)	22,500 円	
敷 金	有() 円	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり			円

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	26 名	男性	2 名	女性	24 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	11 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.4 歳	最低 67 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	県立精神医療センター・毛利内科・アート歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成8年開設、15年開設の3ユニットで運営されている。10月に管理者の異動があり、職員の休職も予定されているが、事業計画、目標にそったゆるぎない運営がうかがわれた。入居生活が長くなっている中で体力、認知度の低下もみられ、入居者の生活能力、レベルの違いによる、一人ひとりに合ったケア、支援の困難さも窺い知れるが、家族からの意見、要望を真剣に受けとめている。法人施設のリハビリ教室への参加や、入居者の楽しみごと、気晴らしへの方策としてボランティアの送迎を受け入れ支援するなど、可能なかぎり方策を探り努力している。今年度の重点方策として「尊厳を持ちその人らしく最期まで過ごす事ができるターミナルケアのあり方を探る」としている。1日の大半をベッドで過ごしている方の居室に、入室させていただいたが、清静し凜とした気配と共に、穏やかで安心した様子に方策にそったケアの実践が為されていると感じた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>①自治会への加入、ホームの現状報告や理解に向けた「たより」の発行は努力はみえるが、未達成である。②運営推進会議でのホームからの報告事項の伝達、各委員からの発言等活発な意見交換がうかがえ、出された意見、提言実現についても、できる事柄に取り組んでいる。③特養ホーム職員の災害時の際の協力体制も取りつけている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価にあたっては、会議の中で全員で話し合い検討し、それらを管理者がとりまとめた。サービスの成果について、厳しく評価されており、今後の取り組みへの工夫、努力が期待される。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月毎に開催されており、ホームの現状報告と共に行政からの情報提供や提言、家族からの意見、要望など活発に話し合っている。家族からは、災害時の避難等について不安が述べられ、今年度も夜間想定も含め2回訓練を実施している。消防署からの新たな課題への対応や災害時の近隣特養ホーム職員の協力も取り付けているなど、グループホームと関係機関、関係者と地域が協力し合って入居者を支える場となっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年間目標の一つとして家族会の充実をあげ、運営推進会議への出席や、玄関への意見箱の設置、相談窓口として第三者委員も明記している。入居するにあたり、ホームの意向として、家族との関係を継続し、入居者に安らぎと喜びのあるグループホームでの生活を支援していただくために、月に1~2度以上の訪問をお願いしていることもあり、よく面会に来てくれる。その際に意見、希望を話してもらえ、災害時の避難訓練実施内容などを報告し、安心してもらえるように努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>市の敬老会への出席、選挙、健康診断にも出掛けており、窓拭き、植木剪定、入居者の趣味の会参加時の送迎などボランティアの受け入れは多彩である。自治会への加入はしておらず現況、ホームから住民等への情報の発信不足が懸念されるが、加入等について職員等と話し合っているため今後の継続努力をお願いしたい。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念であり、現在に至っている。今年も会議で運営理念について話し合い、入居者の状態の変化や地域密着型サービスとしてより分かり易い表現やユニット毎の目標作成等を見直すことで合意し、現況に合った理念、ユニット目標の策定に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日誌の表紙に理念を表示し、日々のケアへの反映や振り返りの一助としている他、毎月の会議でケースを出し合い理念に添っての実践を話し合い、全職員で共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会への出席や、道路向いの市文化財での防災訓練にも参加している。また地域からの見学に応じ、小、中学生の実習を受け入れ、窓拭き植木剪定、送迎等ボランティアも多彩に訪れている。しかし自治会には未加入であり、新聞、たよりの発行など地域への理解に向けた方策に不足が感じられる。	○	入居者の介護度が進行し、地域の人達との交流や活動への参加ができにくいということも話されたが、自治会への加入については職員間で話し合う機会もあるということであり、将来への展望もはかりつつ加入に向けて話し合い、「新聞」の発行にもより努力していただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価にあたっては、会議の中で全員で話し合い、検討した上で作成している。評価の意義をよく理解し、日ごろのケアを全員で振り返り、課題を共有し、質の改善に努めると共に外部評価についても事後全員へ周知し、取り組み期待項目の共有に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に開催し会議の内容等を家族会で報告している。家族からは災害時対応への不安など提言され、そのことも踏まえて避難訓練を実施している。また市の担当課長には歌の好きな入居者への支援として「歌う会」への参加をすすめられ、ボランティアの送迎で参加できている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からは運営推進会議への定期的出席の他、1か月に1度は訪問しホームの現状を把握している。認知症家族の会での講師依頼等事業受け入れにも努力し、地域住民や家族から直接相談される事案についても必要の都度市に取り次いでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	遠方の家族も毎月面会に来られるので、ケア担当者が面談し、日ごろの暮らしぶりや身体状況、薬などの変更事項、金銭出納について報告し、意見、要望を聞いている。請求書の発送時にもケア担当職員の「たより」と共に職員異動、運営推進会議の報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「意見箱」を置き気兼ねのない相談、意見表出への方法としている他、「家族会」「運営推進会議」でも常に意見、要望を聞いているが、日ごろの面会時に直接職員に話されることが多い。出された意見は全職員で共有し、ケアプランにも反映をはかり、管理者、管理者会議へと報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動、離職に伴う本人、家族の不安についてはよく理解している。それらの影響を和らげる方策として、各ユニット内の3～4名の職員が日ごろから他ユニットの入居者と関わり馴染みとなって、応援するなどしている。家族には面会時に挨拶し、手紙での報告もしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修として年間計画を作成し、月毎に項目を決めて講師を招き受講している。また外部研修の案内を職員に知らせ希望や段階に応じたの参加をすすめ、各種研修への参加、同法人他施設での救急救命法訓練ではAEDを体験するなど、職員も意欲を持ち参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は10月に着任しているが、市内他グループホームに相談、意見をもらうなどしており、理解し合える協力者として、今後もお互いに交流をはかり、質の向上に努めたいと話している。NPO県グループホーム協議会に加入し相互の交流、研修会や実践報告会に参加し、リーダー研修での実習生も受け入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込時には自宅を訪問し日常の暮らしぶりの様子や家族からの生活歴など本人の情報把握に努めている。また入居者には昼食も含めホームの生活を体験していただき入居開始としている。入居してからも状態に応じ、電話で家族の声を聞かせるなどして本人が安心、信頼できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	以前の趣味を活かし週に1度花を買いに行き、ホームや居室に飾ったり、茶会をしたり、洗濯物の干し・たたみ、掃除、草取りなど、無理なく楽しみながら出来ることを行ない、お産の近い職員をいたわって精神的に支えてくれたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりについて日々の行動、言葉を日誌に記し職員間の共有を図るように努めている。支援した上で効果があつたこと、不穏を招いたこと等を評価し、次への支援に繋げる努力をし、また言動で分からないことは後日家族等に聞くなどしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月家族と面談し訪問看護師からの身体状況の記録なども提示しながらケアプランへの希望を聞いている。会議でそれらの情報を伝え、他の職員の気付きも検討しつつケアプランを作成し家族に渡している。家族が職員からの説明、希望の反映について満足していることは、家族アンケートからも読み取れた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月ケアプランを検討、評価し見直ししている。月毎の家族面談時にはケア担当が意見、希望を聞き、「なるべく歩かせてほしい」など要望された時などその手段をプランに反映できるよう取り組み実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助と身体に活力のある入居者等への個別の支援として、リハビリ教室への参加を支援している。誕生日をはさんでの家族の宿泊への支援も行なっている。またボランティアによる送迎をお願いして趣味の「歌う会」に出掛けて楽しむ入居者もいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの人が入居前のかかりつけ医で継続受診を行ない、職員が同行している。医療連携体制を整え、訪問看護師が定期的に訪れ身体状況の把握を行い、職員へのアドバイスや相談にも対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の重度化や終末期に向けたホームの対応を指針にそって説明し、面談時に意思確認を行ない一人ひとりのケース記録に添付している。状況に変化が生じた方について、医師、看護師、家族、職員の取り組みを綿密に記録に残し、共有に努めていると共に最後は取決めに従い、救急車で搬送した事例もあった。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員とのヒヤリングの中でケアについて「自分がされて嫌なことはしない」と話してくれたが、入居者への呼び掛けの口調は穏やかで丁寧である。日々記録する書類はファイル箱に入れて、入居者の様子に配慮し記録しているようだが、たまたま居間に置かれていたので、より注意した取り扱いをお願いしたい。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	年々入居者の状態も変化し、一人ひとりのレベルの違いも大きいなど、「思い」の把握と支援が難しくなっているようだが、馴染みの関係を活かし表情や仕草で判断して、希望に添ったペースでの支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は各ユニットの担当者が商店に発注し届けられている。週に2度オリジナルメニューの日があり、入居者の好みや希望のメニューを聞き、買い物にも一緒行き提供したり、誕生日、七夕、月見など季節毎の行事食や、時にはおやつバイキング、食べ放題の焼きそばなど変化をつけて楽しんでいただき、準備や片付けを一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したがる人はいるが体調やタイミングをはかり声掛けし、また仲よし同士入浴を楽しむ入居者もいる。体力の低下などに伴いグループホームでの入浴支援が本人にとって負担が大きすぎる人も居り、訪問入浴介護も取り入れ支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居前のなりわい、趣味を活かし週に1度花を買物に行きホームに飾ったり、お茶を点てたり、天気の良い日や職員体制に余裕がある日はドライブ、散歩、買い物などに出掛けている。また掃除、草取り、洗濯物干し、たたみ、もりつけ、お茶入れなど、その人の「できること、できる力」を持続していただけるよう工夫し、「歌の会」に出掛ける人もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺への散歩、買い物、ドライブ等できるだけ希望にそって出掛け、天気の良い日は中庭で食事をしたり、お茶を飲んだり工夫しているが、職員は入居者一人ひとりにとっての自由に楽しめる外出への支援は十分ではないとしている。	○	遠出の外出や行事への参加ができにくい入居者への支援も含め、庭先での日向ぼっこやベランダでの食事、お茶のみなど現状では精一杯工夫対応していることは評価できる。家族も現状を受け止め感謝しているが、職員は厳しく自己評価し方策を探っているため、期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や入居者の居室には従来から鍵は掛けていない。ひんぱんに出入りを繰り返す入居者も見受けたが、職員と一緒に付き添って落ち着かせている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のホームの対応について、家族から会議等でも不安を述べられている。事業所としては夜間想定も含め避難訓練を年2回実施し、近隣にある法人施設からの協力を得ることや、職員を配置して応援に要する時間を確かめている。消防署からの指導、提言を今後活かすことにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量はチェック表で把握し、ホームでのオリジナルメニューについても法人の栄養士から指導、助言を得ている。車椅子利用の入居者についても他施設の計器を使って体重測定し、極端な増減に注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットは居間の広さ、設えに少し違いがあるものの、和風に整えられ、浴室、トイレなども家庭的で入居者に馴染みのものである。入居者の認識の変化にも常に配慮し、夜間外部からの光反射対策としてカーテンを取り付けたり、中庭に面した硝子戸にも目隠しとしての対策を施そうとしている。入居者が安心して穏やかに過ごせる共用空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者にとって使い慣れた道具、家具を持ち込み、家族写真を飾り、花なども生けて飾っている。戸棚に納められている茶道具は、昔の生活の一端がうかがえる。方針としてうたわれている入居者一人ひとりへの豊かな生活を実感できる環境作りへの支援がなされている。		